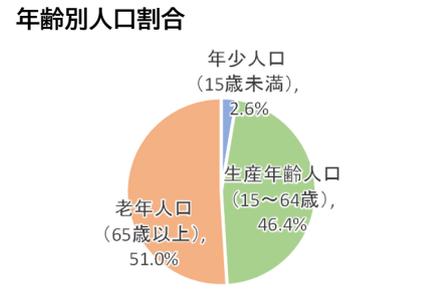
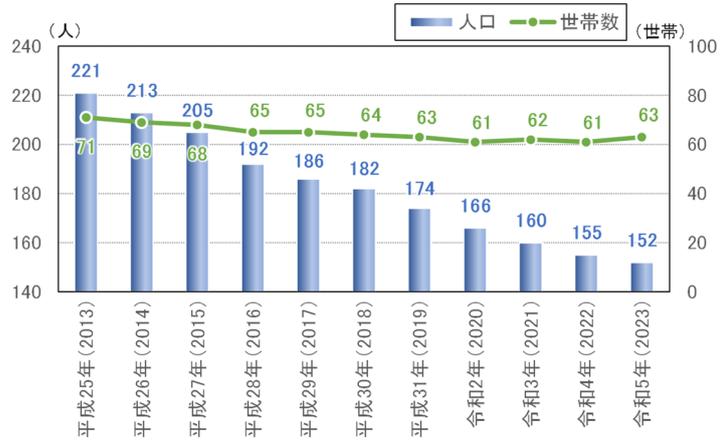


中 辻 (なかつじ)

人口・世帯数等 (令和5年4月)	
人口	152人
世帯数	63世帯
高齢化率	51.0%



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落は、照来盆地の南西部にあり、標高260mの高地に位置する。棚畑・棚田が多い。

地名由来 12世紀の『伊呂波字類抄』によると、「辻」という字が10世紀まではなかったとされることから、中辻は、村自体はあったとしても、その名はなかった。丹土への道、塩山・飯野への道、関尾峠を越えて岸田への道が交わる辻に位置することによると思われる。(「たじま地名考」日本海新聞)

歴史等 常盤神社の古文書(昭和10年(1935)3月16日の大火により焼失)には、「霊亀2年(716)に大地震があり、丹土のオオドロミという所から滑落・流出し、一帯の隆起や陥落は飯野でせきとめられた」と記されていたことが伝わる。この記載に従うなら、現在の集落の民家は周辺にあったものと思われるが、住居跡は見つかっていない。

近世の中辻村は、天正11年(1853)因幡国鳥取城主宮部氏領、慶長6年(1601)同国若桜藩領、慶長10年(1605)旗本宮城氏知行、寛永20年(1643)幕府領、寛文8年(1668)からは豊岡藩領となった。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は244石余。特産物は但馬牛。

明治22年(1889)照来村の大字となり、昭和29年(1954)からは温泉町の大字となる。明治24年(1891)の戸数90、人口は男217・女220。

これまで把握している文化財

文化財の件数 25件 (うち指定等文化財 1件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等			
有形文化財	建造物	建築物	0	14	0		
		石造物	3		0		
		工作物・その他の構造物	4		0		
		彫刻	5		0		
	美術工芸品	絵画	0		7	0	
		芸品	1			0	
		書跡・典籍	0			0	
無形文化財		古文書・歴史資料・考古資料	1	0	0		
		音楽	0		0		
		演劇	0		0		
		工芸技術	0		0		
		その他の無形文化財	0		0		
		信仰の場	2		8	0	
		有形の民俗文化財	祭具			0	0
			民具			0	0
			その他の有形の民俗文化財			0	0
		無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能			2	6
民俗技術	0		0				
食文化	0		0				
民間説話・俗信	4		0				
その他の無形の民俗文化財	0		0				
散布地・集落跡・生産遺跡	1		0				
古墳・その他の墓	0		0				
記念物	遺跡	城館跡・寺社跡	1	2	0		
		街道・古道等			0		
		戦争遺跡			0		
		その他の遺跡			0		
		山岳・高原・丘陵			0		
	名勝地	海岸・海浜・島嶼	0		0		
		河川・滝・溪谷・湖沼			0		
		公園・庭園			0		
		その他の名勝地			0		
		動物			0		
動物・植物・地質鉱物	植物	1	0				
	地質鉱物		1	0			
文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地	1	0				
伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等	0	0				



一本松と宝篋印塔、五輪塔、地藏



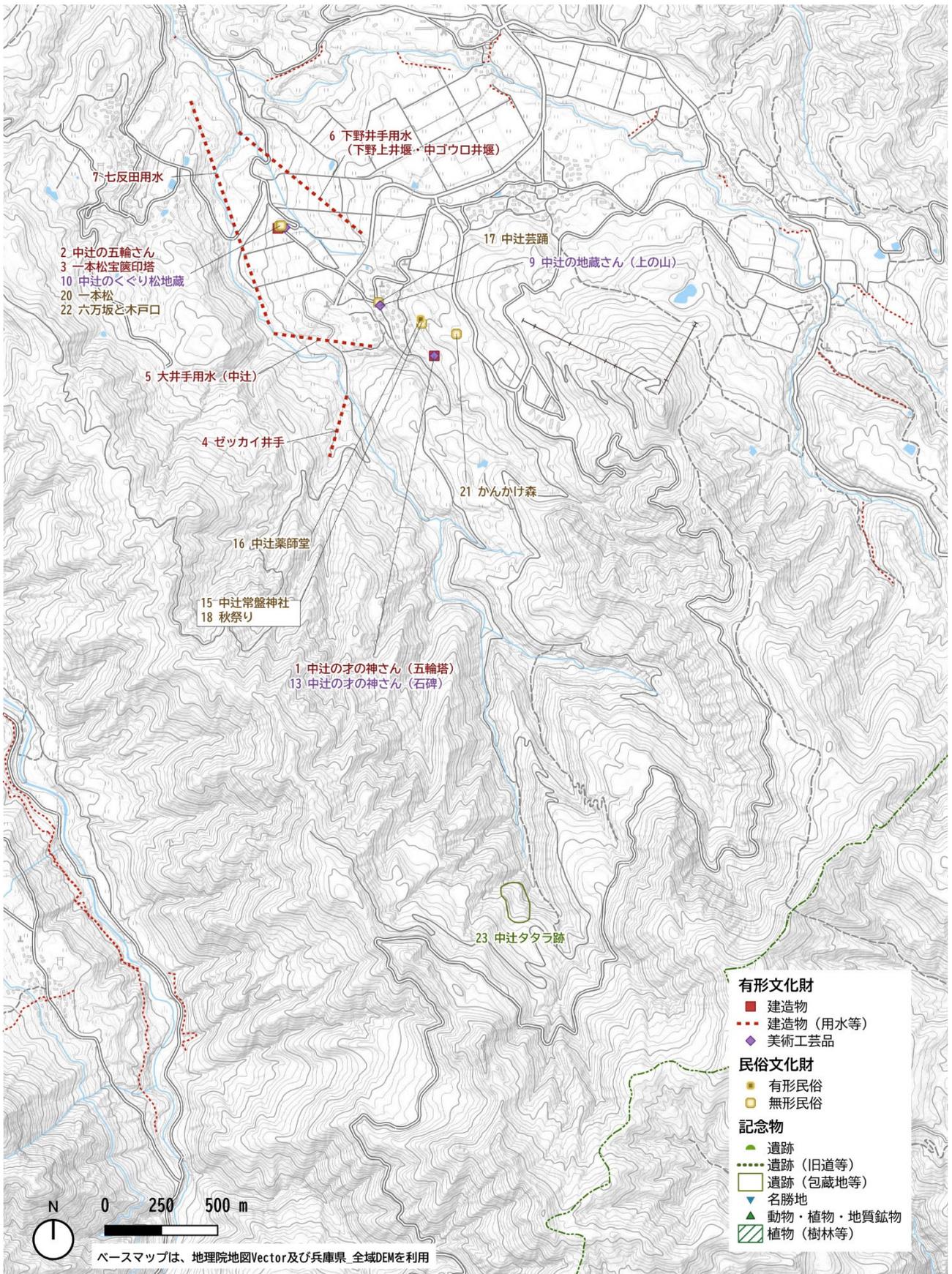
常盤神社



中辻芸踊

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

5-05 中辻

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
石造物	1	中辻の才の神さん(五輪塔)	村はずれの竹やぶ付近に、数体の五輪塔が不規則に置かれている。
	2	中辻の五輪さん	周囲に田が広がる小高い丘の上に祀られている。何基かの五輪塔の残欠。江戸時代前期のものと思われる。
	3	一本松宝篋印塔	中辻と塩山の村境の通称「一本松」の眺望の良い場所に立つ。道路工事の際に数m位置を動かしている。相輪がなく、代わりに五輪塔の空輪をのせている。地藏や五輪塔とともに安置されている。
工作物・ その他の 構造物	4	ゼッカイ井手	近世初期に築造された水路。水路延長3,000m、灌漑面積1.90ha。取入口は中辻字小岸、中辻川。
	5	大井手用水	近世以前に築造された水路。水路延長900m、灌漑面積3.80ha。取入口は中辻大井手、排水口は中辻川。
	6	下野井手用水 (下野上井堰・中ゴウ口井堰)	近世中期に築造された水路。水路延長3,200m、灌漑面積4.50ha。取入口は中辻大谷、排水口は中辻川。
	7	七反田用水	近世に築造された水路。水路延長800m、灌漑面積2.80ha。取入口は塩山麦田1629、排水口は照来川。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	8	中辻下野石棺仏	古墳出土の石棺を転用しているものと思われる。現在は地藏尊や宝篋印塔、五輪塔がコンクリートブロックの祠に安置されており、石棺と思われる石材の所在は不明。
	9	中辻の地藏さん(上の山)	195×62cmの石像。公民館の村中側にあり、信仰の中心的存在。台石の碑銘は、正面に「万人講」、右側面に「文化十年(1813) 癸酉九月吉日」。
	10	中辻のくぐり松地藏	88×26cmの石像。中辻から塩山方面に下り、道路から数十m入った中辻と塩山の村境に立つ。頭部がなく、五輪の石がのせてある。宝篋印塔や五輪塔とともに安置されている。
	11	中辻薬師さんの木像(1)	80×58cmの木像(坐像)。村の中央の上の山(335m)にあったが、昭和60年(1985)の公民館建設の際、上の山(通称宮山)に移転安置された。江戸末期の作と思われる。傷みがはなはだしい。
	12	中辻薬師さんの木像(2)	115×50cmの木像(立像)。村の中央の上の山(335m)にあったが、昭和60年(1985)の公民館建設の際、上の山(通称宮山)に移転安置された。江戸末期の作と思われる。傷みがはなはだしい。
工芸品	13	中辻の才の神さん(石碑)	160×28cmの石碑。享保6年(1721)建立。
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	14	中辻区文書	個人蔵。(西澤家)

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	15	中辻常盤神社	祭神は天神7代地神5代、高皇産霊尊。霊亀2年(716)、字中山に創立したと伝わる。後に宮坂に移転遷座したが、永正9年(1512)8月の大洪水で社殿が流失し、現在地に移転再建。明治2年(1868)に常盤神社と改め、明治6年(1873)3月に村社となった。昭和10年(1935)3月16日の火災で鳥居だけを残して焼失。境内には八幡神社(応神天皇)、八坂神社(素戔嗚命)、天満神社(菅原道真)がある。昭和28年(1953)7月18日、牛加美神社を新設し、祭神を養父神社から分霊を受け、泉州牛滝より威徳大明神を受け奉斎。4月18日を大祭とし、五穀豊就牛馬安全を祈願する。

分類	番号	名称	概要
信仰の場	16	中辻薬師堂	概要不明

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	17	中辻芸踊	刀剣等を持って踊る素朴なもの。全て男性で、男役は前掛けに諸肌脱いだ姿、女役はねごまと鉢巻き、たすき掛け姿、道具は全て手作りのものを使用している。桃山時代より中辻村に伝わる盆踊りで仏様の供養として、8月14～15日の手踊りの合間に踊り、名所敵討ち場面等を表現している。 町指定文化財
	18	中辻常盤神社秋祭り	10月1日に常盤神社で行われる。
民間説話・ 俗信	19	うしろかじや	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p174参照
	20	一本松	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p52参照
	21	かんかけ森	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p162参照
	22	六万坂と木戸口	※『温泉町郷土読本』（昭和42年、温泉町教育研修所調査部編集）p238参照 ※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p47参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・ 集落跡・ 生産遺跡等	23	中辻タタラ跡	タタラ跡（生産遺跡）。中辻集落より4km山奥から鉾津が多数出土。豊岡藩領。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
地質鉱物	24	照来盆地	「照来米」「但馬牛」「照来清水」など、地質、地形、水質などの恩恵を受け、歴史、食などが豊富に存在する。

■ 文化的景観

分類	番号	名称	概要
生活・生業・ 風土により 形成された 景観地	25	照来盆地の棚田	地すべり地の緩斜面を利用して拓かれた棚田。